

あすぴあ登録団体 & 市民活動団体の紹介

こんな活動をしています

Vol.
47

あすぴあ広報部会が
取材しています。

*1 日本では「配偶者や恋人など親密な関係にある、又はあった者から振るわれる暴力」という意味で使用されることが多いです。配偶者からの暴力を防止し、被害者の保護等を図ることを目的として制定された「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律」(配偶者暴力防止法)は、「DV防止法」と呼ばれることもあります。(内閣府男女共同参画局ホームページから)
*2 若い恋人同士の間で起きる暴力のこと。(リーフレットから)

ひまわりのおうち

「ひまわりのおうち」は社会や学校になじめず、ひきこもり等の生きづらさを抱えている方が、安心して語りあったりしながらホッと過ごせる居場所です。代表の宮崎淳子さんとスタッフの方に、活動についてお聞きしました。

▼ 居場所の様子



▼ 餃子づくり



宮崎さんは元気村内の「おだまき工房」の職員であつたところから、障がい者たちの就労支援に関わっていましたが、退職後にも何かしたいと思い、「おだまき工房」の岡田真人さんや、社会福祉協議会の方の協力を得て、2021年8月に「ひまわりのおうち」を立ち上げました。スタッフは宮崎さん、岡田さん、笹木さん、日野さんで運営しているそうです。

学校、社会になじめず、ひきこもっていたり、生き

づらさを抱えたりしている方を対象にしているそうですが、厳密な線引きをせずに受け入れているそうです。来る方はXを見たり、チラシを見たりして、予約なしにぶらっと来て話をしたり、聞いたりできる居場所。名前も言いたくない人は言わなくても、かまわない。詮索されない安心感があります。

来所する方は他市から来る人も多く、成人(20代から60代)がほとんどだそうです。スタッフは特にアドバイスなどはしないで、話を聞いて気持ちを共有しているそうです。料理教室を小平市中央公民館で開催する時も、予約は無しなので、参加者が予想より多い時は追加の材料を買い足したりするそうです。話を聞いて、スタッフのゆったりしている対応の仕方に感

銘を受けました。

活動をしていてよかったと感じることは?と聞きました。大学生の日野さんは、来た人がすっかりした笑顔になったりするのを見てうれしいと言って、卒業後も社会福祉の仕事がしたいと話しました。他のスタッフも、繰り返し来る方の変化が見られること、話を聞くことで気づきがあること、笑顔が増えることが励みになること、またこれからも、だれもが集える居場所として続けていきたいと話しました。(安)

DATA

連絡先●090-9231-8170(宮崎淳子)
042-346-4530(おだまき作業所・岡田真人)
メール●ouchi.of.himawari@gmail.com
X●「ひまわりのおうち@小平」で検索(@himawarikodaira)
HP●https://hikipla.com./groups/115(ひきこもりプラットフォーム)
開催日●第2土曜日・第4日曜日 14時~16時30分(変更あり・Xで確認)
場所●小平元気村おがわ東、おだまき作業所内

こだいらDV防止ネットワーク(通称:Pネット)

結成は2008年。DVという言葉が社会で聞かれ始めた頃から、Pネットは活動をしてきました。高岡正人さんと日向美砂子さんにお話を聞きました。

令和に入った現在では、「DV」を「ドメスティック・バイオレンス(*1)」と読み、親密な人たちの間の暴力を意味することは多くの人が知っています。Pネットが始まったきっかけは読書会でした。地域の身近な暴力をなくしていこうと『愛が暴力にかかわるとき』(森田ゆり・著)を読む会に集まった人たちが活動がスタートしたのです。

中央公民館の小平市市民学習奨励学級を利用して、DVという言葉に馴染みのない人たちにも知ってもらおうと講座を企画・運営したり、安心して自由に話せるDaVeri場(だべりば)という小人数の集まりを行ってきました。そのうちに被害者支援をしたいという意見がメンバーの中から出て、電話相談を計画し、YWCAから研修を受けるなど準備をした上で、「近所に気がかりな人がいる」というようなケースに対応をしながら、必要に応じて専門性のある支援先へつなげていこうと市民電話相談を始めました。相談研修や電話設置・リーフレット作成などの費用は、草の根市民財団や消費者団体などの助成金を得て、活動を続けてきました。その間には、あすぴあへの問合せから、女性の支援をしたい人がPネットの会員になることもありました。

「Pネットの活動では市など公的機関との連携や地域との連携が欠かせません。つないでいく市民



▲いさいき市民協働事業によるオンライン講演会の様子(講師:上野千鶴子さん)2021年12月5日



2025年「女と男の市民活動」展示▶

の力が大事。」とお二人。小平市のいさいき協働事業に応募して採択され、「ジェンダー平等をめざすオンライン連続講座&小平アクティブプラン21[第四次小平市男女共同参画推進計画]策定のための地域懇談会(全3回)」を実施しました。3人の講師(森田ゆりさん、浅倉むつ子さん、上野千鶴子さん)がオンライン形式で講演するものでした。また、「手をつなごう だいじょうぶここにいるから」というメッセージ付きリーフレットを配布しています。市民活動団体「子ども∞(むげんだい) 幸せ円卓会議inこだいら」と一緒にデートDV(*2)を伝える若者向けリーフレットも作成しました。これからは、2014年から2024年まで行った電話相談を一旦卒業して、2025年からはDaVeri場に力を注ぎたいということでした。(谷)

DATA

メール●kdairapnet@gmail.com

小平・環境の会

西武線小平駅近くの永田珈琲店で会代表の島さんと会役員の深澤さんにお会いして取材をいたしました。

■会設立の思い……掛け替えの無い地球の自然をこれ以上損なうことなく、次の世代に引き継ぎたいとの強い思いから、地域住民に声掛けをして立ち上げた会です。そのきっかけとなったのは日の出町にあるごみの最終処分場が町民に大きな負荷をかけていることを知ったことです。

■会の設立年……1995年に上記のごみ問題に関心を持った有志が「環境を考える市民の会」を設立し、2003年に「小平・環境の会」に改名、2004年にはNPO法人化も図りましたが、2018年には法人を解散して一般市民団体に戻り、今日に至っています。

■会の主たる活動

①1回/月の役員会の開催:活動テーマ及び取り組み方、役割分担の決定、活動の進捗報告と対策の検討等

②2回/年の会報「環音(わおん)」の発行と配布:2023年及び2024年の会報はPFAS(有機フッ



セミナー会場での受付風景

素化合物)問題(水汚染問題)の記事で一杯です。2023年3月25日と「PFAS問題(水汚染)を追って」をテーマに当会が参加する「PFAS汚染問題を考える会」主催の連続講演会を開催したこと。③「PFAS汚染問題を考える会」が2024年の小平市議会にPFASに関する請願書2件を出し、一部文言の修正があったが6月の議会で採択されたこと。その後、国分寺本町クリニックの医院長(杉井吉彦さん)を講師にお招きして開催した勉強会が盛況であったことが分かりました。

■会の課題……会員の高齢化が進み会員及び役員の数々が年々減ってきていることだそうです。環境に興味をお持ちの皆さんの参加、まずはPFAS(有機フッ素化合物)などの勉強会への参加をお待ちしているそうです。

■代表者にお会いし、お聞きして分かったことは、当会の活動が市民目線での、環境保全という市民共通の課題であることです。2月16日(日)には環境ジャーナリストの栗岡理子さんを講師にお招きしての講演会「人工芝からもPFAS?!!」にも参加しましたが、30名を超える参加者が熱心に聴講されていました。(細)



DATA

連絡先●080-5496-7675(島京子)
メール●kodaira_kankyo@jcom.zaq.ne.jp
HP●https://tom2rd.sakura.ne.jp/kodairakankyonokai/
活動場所●中央公民館・美園地域センター・喜平地域センター等